

をいう。2季節以上が的中している地点数は29, 74.4%である。

第9表には、 $\bar{y}_{i..}$ とそれに対する予測範囲を示した。この場合の予測的中率は69.2% (27地点) となる。 $\bar{y}_{i..k}$ についての表は省略するが、2時間帯以上が的中した地点数は27である。

上で、 \bar{y}_{ij} を目的変数として算出された予測値の j による平均値は、 $\bar{y}_{i..}$ を対象 (重回帰手法と同じになる) に算出された予測値と一致する。第8表で、第9表では非的中となる地点は、たとえば御前崎のように、2季節的中したが、平均すると僅かな差で非的中、のケースである。

第9表には、比較のために式(3)による推定値に平均を加算して示した。当然、推定値は模擬予測値よりも実測値に近い値となっている。推定値がもつ精度については、明確な統計量で表すことができるが、この精度は必ずしも予測の当否を反映しない。この点については、内陸における予測法を示したのちに述べる。

文 献

- 荒木眞之, 1979: 地形要因による山地の風速推定法, 林業試験場研究報告, 303, 47-63.
 橋口渉子, 1983: 農業利用における小規模風エネルギーのメッシュデータによる評価方法の研究, 第1報, 第2報, 天気, 30, 367-384.
 本間琢也編, 1979: 風力エネルギー読本, オーム社, 東京, 143, 136, 116, 137.
 建設省国土地理院, 1980: 国土数値情報の概要, 建設省国土地理院地理管理部.
 小峯, 村上, 柴田, 松野, 1980: メッシュデータを用いた地形因子解析法による任意の地点の平均風速の推定方法に関する研究, 天気, 28, 849-861.
 Rao, C.R., 1964: The use and interpretation of principal component analysis in applied research, SANKHYA (A), 26, 329-358.
 Spreen, W.C., 1947: A determination of the effect of topography upon precipitation, Trans. Am. Geophys. Union, 28, 285-290.
 吉野正敏, 1961: 小気候, 地人書館, 131.

気象研究ノート149号「モンスーンをめぐる諸問題——モンスーンの変動に及ぼすチベット高原の影響について——」(1984年6月)

目 次

住 明正・村上多喜雄

第1章 はじめに

第2章 夏季モンスーンに及ぼすチベット高原の影響について

第3章 冬季モンスーンに及ぼすチベット高原の影響について

第4章 南半球の夏のモンスーンについて

第5章 あとがき

配布価格

通常会員	1,300円	定期購読会員	1,050円
団体会員	1,800円	会員外	1,950円